

出張報告

「ハーバード大学ライシャワー日本研究所設立40年記念会議」

2013年はハーバード大学ライシャワー日本研究所が設立され40周年を迎えた。これを記念するシンポジウムが同年9月26日、27日の両日ライシャワー日本研究所で開催された。シンポジウムのテーマは〈Japan Re-examined: Perspectives Since 1973〉であった。日本学術振興会（JSPS）国際事業部の共催であったが、私はJSPSの助成を得て会議に参加した。研究所はハーバード大学の構内にあり、研究室、会議室の他にこうした講演会、シンポジウム等のための部屋もあり、そこで二日間の会議が開かれた。

初日の26日は〈Session 1: Constitutional Revision Since 1973 & Beyond〉が行われ、4組の発題者と応答者があり、さらに質疑応答が行われた。また二日目の27日は〈Session 2: The Question of Change: Forty Years of Japan〉が行われ、4つのパネルがあった。

初日は国際日本文化研究センター瀧井一博教授、慶応大学の駒村圭吾教授、ミシガン大学のKenneth McElwain教授、コネチカット大学のAlexis Dudden教授の発表とそれぞれへの応答がなされた。夕方にはレセプションが開かれた。

二日目4つのパネルは次のとおりであった。

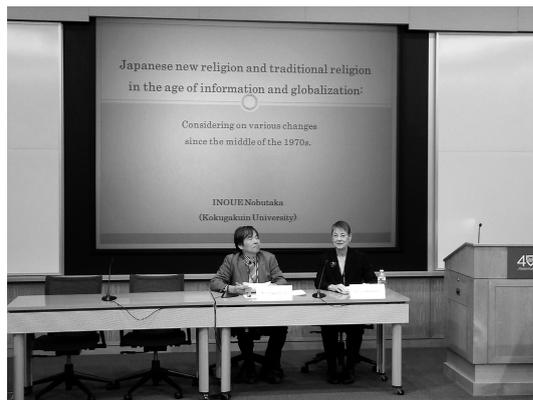
- ・ The End of Postwar Japan?
- ・ New and Traditional Japanese Religions in the Information and Global Age: Considering Changes Since the mid-1970s
- ・ Women and Children First? Gender Relations and Family Change Across 40 Years
- ・ The Rise of Amateur/Otaku Popular

Culture in the 1970s & Issues of Archiving
日本からは東京大学の吉見俊哉教授、京都大学の落合恵美子教授、明治大学の森川嘉一郎准教授が発表し、私は二番目のパネルである〈Panel on Religion and Religious Studies〉で発表した。同パネルはライシャワー研究所のHelen Hardacre教授との組み合わせであった。

会議では同研究所のスタッフ、また国外から研究に訪れている若手の研究者たちとの交流の機会ももつことができ、きわめて有意義であった。また同大学の主な施設、付属の博物館をいくつか見ることができたし、図書館の一部も見ることができた。

また会議に前後してボストン美術館の見学、キリスト科学（Christian Science）の本部の見学、その創始者のメアリー・ベイカー・エディ夫人の墓所の見学などもできた。

当時、研究開発推進機構の大東敬明助教がハーバード大学に國學院大學と同大学との協定に基づき滞在していたので、学内や近郊を案内してもらった。



(井上順孝)